

彦根市本町地区の町並み再生について

On Honmachi area streets restoration

桑 野 正 則*

Kuwano Masanori*

Abstract : In the Honmachi area, the restoration is taking place. There are many old fashioned black and white Edo townsmen's houses, with gray colored roof tiles, white walls, lattice windows, etc. They are perfectly lined as street view restoration project.

The city planning road Honmachi line which runs through this area was too narrow as it is remaining from the time of the construction of the Castle town. The city of Hikone made the decision to widen the road in 1985. During the initial widening, the residents along the street took the leading part and cooperated with the city government and the city planning experts. The restoration will soon be completed and the streets will be traditional as well as unique to the city of Hikone.

KEY WORDS : OLD & NEW , NEW "OLD STYLE" , ENERGETIC TOWN

1. はじめに

近年まちづくりに対する関心は高く、その内容も物的・量的な面から、質的・精神的な豊かさを求める方向に変化してきており、地域の個性、歴史、文化等に根ざした、うるおいのある環境整備、美しい景観形成といった視点を大切にすまちづくりが求められてきている。

このような状況の中で、住民と市、専門家などが一体となって取り組んだ本町地区地区計画による「町並み再生」の過程とその概要を紹介する。

2. 彦根市の概要

本市は、滋賀県のほぼ中央部「琵琶湖」の東岸に位置し、豊かな水と沃土に恵まれた都市です。古くから京阪神、東海、北陸を結ぶ交通の要衝となっており、近年においても、東海道新幹線等、交通機関の発達にともない滋賀県下でも有数の産業、観光の都市として、人口10万3千余を有する県東北部の中心都市となっている。

市街地の中央には、開国の大老井伊直弼の居城で名高い国宝彦根城がひときわ高くそびえ、「城と湖の町彦根」のシンボルとなっている。



図-1 本町地区の位置

3. 本町地区の町並み再生

3.1 本町地区の概要

本町地区は、彦根城の南に面し、慶長9年(1604年)、武家屋敷に続いて町家の町割り为本町から

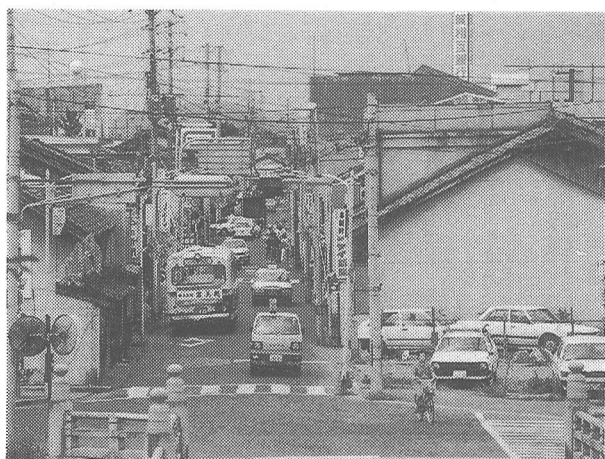


図-2 旧町並み

3. 2 町並み再生の経過

本町地区を南北に縦断する都市計画道路本町線は、築城当時のままで道路幅員6m程度と狭小なため、幹線道路としての交通事情に対応できなくなった。このため、昭和60年度に事業認可（幅員18m、延長350m）を受けて街路整備に着手することになった。

そこで、当時の井伊彦根市長が、アメリカに行かれた時、近代的な大通りから一步裏筋に入ると、西部劇にでてくるような町並みに出会い、感嘆したことをヒントに、道路拡幅整備するに併せて、通りのイメージを壊すことなく、城下町彦根の町並み再生をすることにより、まちの活性化を図ることを地元住民に提案した。

3. 3 地域住民の取り組み

市からのまちづくりへの提案発表があり、まず市都市計画課が事務局になって、学識経験者、地元代表、行政代表からなる「本町地区まちなみづくり検討委員会」が設置された。

しかし、地権者から、「誰が委員を決めたのか」との猛反発が起こった。そこで検討委員会とは別に、地権者全員が委員になって「本町地区まちなみ委員会」を自主的に組織された。検討委員会で検討した、まちなみづくり構想、整備計画区域の設定、地区整備計画案、まちなみ姿図、助成措置等について協議検討した案について、地元委員会に諮り、意見を聞き1年7ヶ月にわたり検討を加えるというように検討委員会と地元委員会が軸になっていろいろな角度から住民の意向を確認した。

また、「本町地区まちなみ委員会」では住民同士が本音で話し合える場として、地区内の民家を借りて「本町地区まちなみづくり相談室」を開設した。さらに、地元住民全員が責任を持ち、各々何らかの役割持つことを基本に、渉外、広報担当の総務部と駐車場、モニュメント、イベント、研修会、PR等担当の企画部を組織した。広報担当は、定期的に「まちなみづくり通信」を発行し、まちづくりの記録、保存、関係者への周知。また企画部では、市民からまちなみ愛称募集を行い「夢京橋キャッスルロード」として決定。まちなみ先進地視察などを行った。特に「まちなみづくり相談室」では、地権者と市職員、地元建築家との間で、一人一人とひざを突き合わせながら、深夜、あるいは翌朝まで話し合いの続く中で、ホンの話が出されるようになった。たとえば、この地区は商業地域であることから高層の商業施設を考えている人もあったが、地権者の一人で80歳近いおばあさんが「息子の代になって、一見洋風の建物がたくさんできたが、私は昔の町並みが好きだった」と言う発言がキッカケになり、この町の人々の心の中に、江戸時代からの歴史とともに、それぞれがプライドを持っていたことから、まちづくりへのキーコンセプト（OLD NEW TOWN）ができた。

以下に事業の経緯を示す。

始められ、城下町の町割りの基点であったことなどから、明治維新まで、政治、経済、文化の中心地として栄えた。しかしながら、時代の変遷と共に、行政施設の移転、商業機能の低下が見られ、さらに築城当時の狭小な道幅のため、今日の交通事情に対応できなくなり、都市核とはなり得なくなった。

その反面、一步裏筋へ入ると城下町特有のクランク状の道路も多く見られ、また、町並みには、虫籠窓や連子格子の町家や商家の名残があり、今も往時の面影を偲べる町です。

- ・事業の地元説明会
- ・街路の事業認可
- ・「本町地区まちなみづくり検討委員会」発足
- ・「本町地区まちなみ委員会」発足
- ・「本町地区まちなみづくり相談室」開設
- ・「まちなみづくり通信」第1号発行
- ・地区計画の都市計画決定
- ・建築条例公布
- ・建築審査会の発足

昭和60年12月
昭和61年 3月 5日
昭和61年12月 8日
昭和61年12月22日
昭和62年 9月 1日
昭和62年10月15日
昭和63年 4月 1日
昭和63年 7月 2日
昭和63年 9月19日

3. 4 地区計画の概要

本市では、昭和63年に地元住民の100%の同意を得て「本町地区地区計画」を都市計画決定し、引き続き地区計画区域内における建築物の制限に関する市の条例を制定し、今日に至っている。これは、地区計画面積3.1ha、対象戸数68戸について、地域の特性を生かした低層木造建築を中心としたファサードの修景を軸とした町並み景観の再生を図るものです。

以下に規制・誘導等の主な内容を示す。

□用途の制限

- ・風俗営業施設を禁止

□壁面の位置の制限

- ・公道との境界線から1m以上壁面を後退。
- ・3階部分にあっては5m以上後退すること。



再生された町並み

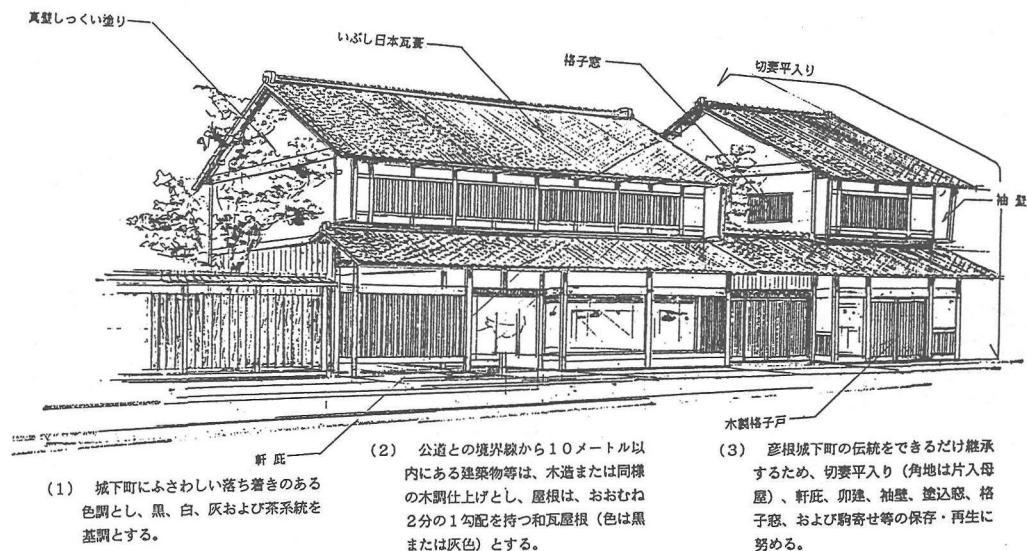


図-2 建築物等の形態または意匠の制限

- ・10m以上後退する場合等は、木製の塀または土塀を設置。

□高さの最高限度

- ・原則2階建て、高さ10m以下。

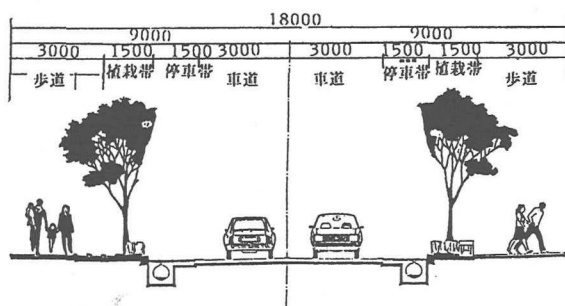
□形態又は意匠の制限

- ・落ち着いた色調（黒、白、灰および茶系統）
- ・木造または木彫仕上げ
- ・概ね1/2の勾配を持つ和瓦屋根切妻平入り、軒庇、卯建、塗込窓、格子窓及び駒寄せ等の保存・再生

また、本町地区地区計画区域内における修景基準を定めるなど、きめ細かな対応が図られている。

3. 5 夢京橋キャッスルロードの概要

夢京橋キャッスルロードと名づけられた本町線の延長350mについて、地域性を生かした道路として再生するためシンボルロード整備事業の採択を受け、地区計画により、白壁と瓦屋根等に意匠統一された沿道の建物景観にも合わせ、本市の顔（シンボル）となる個性と魅力にあふれた街路景観を創出しようとするものです。また、整備の基本方針は①彦根市を象徴する個性的



図ー3 標準断面図

な街路景観と都市機能の共生 ②歩行者のふれあいを誘発するコミュニケーション空間の創出 ③路上施設の適正配置とデザインの洗練 ④沿道の準公共的空間の利用などであり、このことにより歩道はサビ入り自然石貼、車道は土色舗装、また地域性のある並木の形成、シンプルで洗練されたデザイン照明灯やストリートファニチャーの設置、電線類の地中化などアメニティの高い都市空間が創出されています。

また新たに、建設省や各自治体等が連携しながら進めている「歴史街道計画」の重点地区として彦根市が指定されたことから「夢京橋キャッスルロード」を歴史街道としてとらえ、彦根城周辺の豊富な歴史・文化遺産を活かした地域づくりを目指しています。さらに、「ルネッサンス彦根ー城と湖と緑のまちの新たな創生ー」を彦根市都市景観形成のテーマに掲げ、自然と歴史と人々の生活が調和したうのあるまちづくりのモデル地区として「本町地区」を位置づけ、今後地域のまちづくりへ連動していくことを望むものです。



整備された町並み

4 今後の課題

伝統的な建築が軒を連ねるこの通りを歩くと、江戸時代の城下町が復活したように感じられる。しかし、決して古い町並みを再現したものではない。これは伝統的な建築の良さを現代に生かした、新しい町並みづくりをめざすものであり現在85%ぐらいの建物が建替えられています。また、事業着手前は沿道における商店の割合が30%程度であったが、新しく店を始め

る人や、店舗付住宅に建替える人が増えたとにより、現在は商店が80%ぐらいをしめるようになった。こうしたことにより市民はもとより、多くの観光客などが、この「夢京橋キャッスルロード」を訪れるようになり、まちは賑わいをみせるようになりました。平成8年度には、本町地区の町並みは完成予定です。全国でも例のないユニークな町並みづくりは、今注目を集めていますが、5年後、あるいは50年後も、多くの人々が訪れ賑わいのあるまちであるだろうか、町並みはできたが、まちづくりは今がスタート時点であり、これから自分たちのまちをどのように創造していくかが問われています。地元まちなみ委員会委員長は、井伊直弼が言う「一期一会」の精神を大切にしたまちづくりを提唱しています。人との出会いを大切に心をこめた、もてなしを行う。このような気持ちがあるかぎり、もう一度行ってみたいまち、ここに住み続けたいまち、夢のあるまちづくりができるのではないかと思います。

* 彦根市都市計画課 Hikone city, City Planning Section